全体的な状況

法人運営の総括と課題等

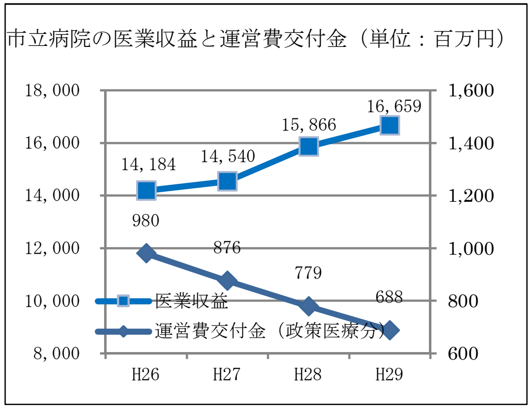
１　総括

第２期中期計画期間は，市立病院では，第１期中期計画期間中に整備した組織基盤と医療機能を活用し，手術支援ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術の先進医療認定，ＧＷや年末年始等の長期休暇期間の一部開院による外来化学療法や放射線治療等の提供，診療時間の拡大など，より多くの患者ニーズに応える取組を進めた。

また，救急医療の強化や，高度な手術の推進に向けて体制等の充実を行うとともに，原発不明がんに対応する腫瘍内科や，手術前から手術後までの周術期の医療の質の向上を目的に周術期統括部を設置するなど，患者の状態に応じて多職種で連携する切れ目のない医療に取り組んだ。

京北病院では，在宅療養支援病院の施設認定取得や，地域包括ケア病床の開設，市立病院医師派遣による皮膚科等の専門診療科の開設，積極的な訪問診療，訪問看護の提供等，地域の患者のニーズに応える取組を進めた。

これらの取組の結果，第１期中期計画期間に引き続き，医業収益を拡大（約２５億円）するとともに，政策医療分野における運営費交付金を縮減（約３億円。いずれも平成２６年度比）するなど，経営面でも大きな成果を得て，独法の特徴である迅速性，柔軟性，効率性を十分に活かした。



２　大項目ごとの取組

中期目標に掲げる大項目ごとの主な取組と項目別評価は以下のとおり（平成２９年度までの小項目自己評価をもとに，年度業務実績評価実施要領に沿って見込評価した）。

＜第３　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置＞

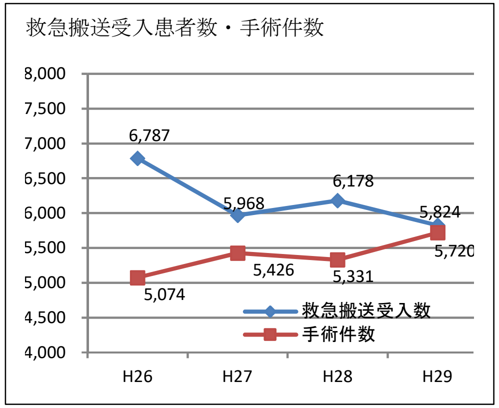
年度評価				中期目標期間評価	
H27	H28	H29	H30	見込評価	実績評価
4	4	4		4	

（市立病院が提供するサービス）

○　感染症医療の分野では，第二種感染症指定医療機関として，必要な医療体制を整備し，多職種連携の下，法に基づいて適切な診療を行うとともに，地域の医療機関とも連携し，院内外における感染対策の取組を進めた。

○　大規模災害や事故への対策としては，関係機関との連携の下，大規模災害を想定した訓練を実施したほか，院外の訓練や研修への参加によりＤＭＡＴ体制の充実を図るとともに，ヘリポート及び救急・災害医療支援センターの活用に向けて取組を進めた。また，事業継続計画（ＢＣＰ）を策定した。

○　救急医療分野では，救急患者受入体制や初期診療プロトコルの整備を進め，年間約６千件の救急搬送に対応したほか，京都市急病診療所の後送病院としての受入れも行った。



○　周産期医療の分野では，医療に係る人材育成に努めるとともに，新生児医療を推進した。

○　高度専門医療の分野では，地域医療支援病院としては，高度な急性期医療の提供や医療機関訪問，地域医療フォーラム開催，幹部医師の医師会入会等による病病・病診連携の推進，逆紹介の推進等により，地域医療機関との適切な役割分担に取り組んだ。

○　地域がん診療連携拠点病院として，健診センターによるがんの早期発見及び治療の推進から，ＰＥＴ－ＣＴ等の高度医療機器による迅速な診断，手術・化学療法・放射線治療や造血細胞移植等の治療，緩和ケアの提供まで，多職種で予防・発見からターミナル期までの高度な医療提供に取り組んだ。また，腫瘍内科や周術期統括部の設置とともに，乳がんドックの新設や長期休暇期間等における外来化学療法や放射線治療の実施，平日夕方の診察等の実施など，求められる医療ニーズに応えてきた。

（京北病院が提供するサービス）

○　常勤医師の体制を充実させるとともに，市立病院から内科，外科，整形外科，小児科，眼科，皮膚科の医師をはじめ，乳腺外科や内視鏡検査の専門医，診療放射線技師等の医療技術職の応援体制を確立し，京北病院で各種専門診療が受けられる体制を整備した。また，電子カルテシステムを含む総合情報システムを導入し，市立病院との間で患者情報の共有を行うとともに，市立病院と京北病院を結ぶ患者送迎便を実施し，化学療法やＭＲＩ検査等の京北病院では実施できない医療について，市立病院で提供する体制を整える等，両病院一体となって質の高い医療を提供する体制とした。

○　在宅療養支援病院の施設認定を取得し，２４時間往診対応及び急変時の入院受入れを積極的に行ってきた。また，地域包括ケア病床１０床を開設し，急性期治療後，病状が安定した患者への治療の継続やリハビリテーションを行ったり，在宅・介護施設での療養や復帰を支援してきた。入院や外来，訪問診療，通所リハビリテーション，診療所等を通じて，京北地域における地域包括ケアの拠点として，また，京北地域唯一の救急医療告示病院として，地域に必要な医療を提供してきた。

資料３

＜第４　市民に対する安心・安全で質の高い医療を提供するための取組に関する事項＞

年度評価				中期目標期間評価	
H27	H28	H29	H30	見込評価	実績評価
4	4	4		4	

（チーム医療・多職種連携の推進）

○　入院支援センターを設置し，入院前から患者情報の収集を行い，多職種で入院時カンファレンスを実施するなど，早期から介入することにより，入院早期から退院を見据えた効率的かつ効果的な診療を実施できた。また，チーム医療の推進に当たっては，栄養サポート，呼吸ケア，褥瘡対策，感染対策等の多職種カンファレンスを組織し，患者の状態に合わせたサポートを提供した。

（安全で安心できる医療の提供に関すること）

○　更新した総合情報システム及び医療安全レポートシステムを活用し，医療安全レポートの提出を一層推進し，インシデント・アクシデント事例の分析，再発防止に努めた。また，年度ごとに重点取組項目を選定し，安全対策に関する活動を行った。

（医療の質及びサービスの質の向上に関する事項）

○　市立病院独自の臨床指標の実績をホームページ等で公開するとともに，指標の中から年度ごとに重点取組を定め，医療の質推進委員会において，各重点項目を担当する委員会がそれぞれの課題，計画，取組状況の報告を行うことでＰＤＣＡサイクルを促進し，医療の質，サービスの質の向上に努めた。

○　ご意見箱や患者満足度調査，市民モニター制度等の患者要望等を基に改善を進めた。

○　連休や年末年始等の長期休暇期間に，放射線治療や化学療法等が実施できるよう開院し，患者及び地域のニーズに応えた。

（適切な患者負担の設定）

○　平成２８年度の診療報酬改定に伴い，初診時選定療養費を改定するとともに，再診時選定療養費を新設し，紹介状持参の呼びかけや地域の開業医への訪問活動を実施するなど，医療機能の分化と連携を推進した。

＜第５　業務運営の改善及び効率化に関する事項＞

年度評価				中期目標期間評価	
H27	H28	H29	H30	見込評価	実績評価
4	4	4		4	

（迅速性・柔軟性・効率性の高い管理体制の充実）

○　全診療科，病棟等に対して行う理事長ヒアリングや，四半期ごとの実績報告会，毎週の経営企画会議や診療管理委員会等において，理事長自らが経営状況を説明し，目標を組織全体に直接指示するなど，理事長のリーダーシップの下，組織的な運営を行った。

（優秀な人材の確保・育成に関する事項）

○　脳神経外科体制の整備や総合内科医の増員による救急医療の強化や，麻酔科の増員による高度な手術に対応できる体制整備など，医師の体制強化に取り組むとともに，看護師や医療技術職等についても随時採用を行うことで，体制の強化に努めた。

＜第６　財務内容の改善に関する事項＞

年度評価				中期目標期間評価	
H27	H28	H29	H30	見込評価	実績評価
4	4	4		4	

（収益的収支の状況）

○　市立病院では，ロボット支援手術をはじめとする高度な手術等に取り組むとともに，入院時からの退院支援やクリニカルパスの充実等を行い，過去最高の医業収益を毎年度更新した。京北病院では，地域包括ケア病床の開設や，訪問診療，訪問看護の強化等に取り組み，平成２８年度に独法化後最高の営業収益を更新してきた。

○　平成２７年度は，マイナス金利政策の影響による退職給付引当金の増加，共済年金制度改正に伴う給与費の増加等により，経常収支においては赤字となったが，平成２８年度，２９年度は継続して経常黒字を確保した。

＜法人全体＞　　（単位：百万円）

区分	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
営業収益	17,148	17,545	18,818	19,699	
営業外収益	214	216	219	226	
計	17,362	17,761	19,037	19,925	
営業費用	16,556	17,732	17,903	18,871	
営業外費用	694	725	790	812	
計	17,250	18,457	18,693	19,683	
経常損益	112	△696	344	242	
臨時損益	△374	△96	△9	28	
純損益	△262	△792	335	271	

＜京都市立病院＞ （単位：百万円）

区分	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
営業収益	16,272	16,651	17,898	18,776	
営業外収益	201	204	207	216	
計	16,473	16,855	18,105	18,992	
営業費用	15,679	16,780	16,998	17,933	
営業外費用	664	694	762	785	
計	16,343	17,474	17,760	18,718	
経常損益	130	△619	345	274	
臨時損益	△374	△95	△9	27	
純損益	△244	△714	336	301	

＜京北病院＞ （単位：百万円）

区分	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
営業収益	876	896	920	923	
営業外収益	13	11	12	10	
計	889	907	932	933	
営業費用	877	954	905	938	
営業外費用	30	30	28	27	
計	907	984	933	965	
経常損益	△18	△77	△1	△32	
臨時損益	0		0	1	
純損益	△18	△77	△1	△31	

＜第７　その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置＞

年度評価				中期目標期間評価	
H27	H28	H29	H30	見込評価	実績評価
4	4	4		4	

（京都市立病院整備運営事業）

○　ＰＦＩ事業の効果をより発揮するため，提供サービスのモニタリングと業務改善会議を継続し，ＳＰＣ京都とのパートナーシップを深め，病院基盤の強化や患者サービスの向上等に取り組んだ。

３　次期中期計画期間の取組

団塊の世代が７５歳以上となる２０２５年に向けて，国や府において医療と介護の一体改革が進められており，市立病院においては，迅速性・柔軟性・効率性を発揮した病院運営に努め，高度な急性期医療を提供する自治体病院として，京北病院においては，京北地域における地域包括ケアの拠点としての役割を果たす。

項目別の状況

<table>
<tr><td colspan="6">第３　市民に対して提供するサービスに関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中期目標</td><td rowspan="3">１　市立病院が提供するサービス
⑴　感染症医療
既存の感染症のみならず，新たな感染症についても，感染症指定医療機関として先導的かつ中核的な役割を果たすこと。</td><td colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</td></tr>
<tr><td>Ｈ２７</td><td>Ｈ２８</td><td>Ｈ２９</td><td>Ｈ３０</td></tr>
<tr><td>Ａ</td><td>Ａ</td><td>Ａ</td><td></td></tr>
<tr><td>中期計画</td><td colspan="5">第二種感染症指定医療機関として，感染症患者を迅速に受け入れる。また，新興感染症や新型インフルエンザ等のパンデミックに備えた医療体制を整備するとともに，院内外の感染対策に取り組むことにより，京都市内において先導的かつ中核的な役割を果たす。</td></tr>
</table>

【実績】

京都市の第二種感染症指定医療機関として，合併症を有する結核症例や他院での結核疑い症例を積極的に受け入れ，MARS 発症が懸念される海外渡航者の健康監視にも対応した。

感染症パンデミックに備え，必要な防護具や器材を整備するとともに，新型インフルエンザ発生を想定した訓練を実施するなど，院内体制を整備した。

また，日常的な院内の感染対策として，１０職種（医師，看護師，薬剤師，臨床検査技師，臨床工学技士，療法士，放射線技師，管理栄養士，事務職員，ＳＰＣ職員）で構成する感染制御チーム（ＩＣＴ）を中心として，全職員対象の感染対策研修会の実施により職員の感染に対する意識向上や，定期的に院内ラウンドを行い，環境整備に取り組んだ。

さらに，感染制御における中核施設として，市民向け公開講座や他施設と感染対策地域連携カンファレンスを実施するとともに，地域の感染症情報を京都府内の病院と共有するなど地域と共同した感染対策に努めた。

関連指標

＜参考実績＞

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
二類感染症患者受入数	78 人	62 人	63 人	60 人	

※すべて結核患者。

中期目標	1　市立病院が提供するサービス ⑵　大規模災害・事故対策 地域災害拠点病院として，大規模な災害や事故の発生に備え，必要な人的・物的資源を整備し，役割を果たすこと。 また，救急・災害医療支援センター（仮称）を整備し，消防局等の救急･防災に関する機関との連携を強化すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	
	災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）の充実や災害備蓄品の整備等，人的及び物的資源を確保する。 災害発生時においては，地域災害拠点病院として他の災害拠点病院等と連携するとともに，京都市地域防災計画に従い，的確な対応を行う。また，ヘリポートや新たに整備する救急・災害医療支援センターを活用することで，必要な医療を提供する。

【実績】

災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）隊員の増員や院外訓練への積極的な参加によりＤＭＡＴの充実を図るとともに，災害備蓄品についても適宜整備し，人的及び物的資源を確保している。平成２８年４月１６日の熊本地震本震においては，厚生労働省からの派遣要請を受け，ＤＭＡＴ１隊を派遣した。

災害拠点病院として，入院患者，外来患者等の安全の確保，他医療機関との連携及び重篤患者等の受入れ等の役割を果たすため，大規模災害訓練，トリアージ訓練，災害本部立上げ訓練等の院内訓練を実施し，適宜，災害対応マニュアルを見直すとともに，事業継続計画（ＢＣＰ）を策定した。

また，ヘリポートについて，大規模災害時に空路からの応援を受け入れるため，常時使用可能な体制を維持し，救急・災害医療支援センターにおいては，被災地での長期支援活動に対応するため，隊員用待機場所及びＤＭＡＴ用備蓄倉庫を管理している。

関連指標

＜参考実績＞

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
ヘリコプター搬送患者受入件数	24 件	24 件	29 件	33 件	

中期目標	事業年度評価結果（小項目）			
1　市立病院が提供するサービス (3)　救急医療 ア　関係医療機関等との連携及び役割分担を踏まえ，入院医療を必要とする重症患者を中心により多くの救急搬送を受け入れ，質の高い救急医療の提供を行うこと。 イ　施設面及び医師等の人的資源を確保し，三次救急医療を担う救命救急センターの役割を果たすべく体制を整備すること。 ウ　小児救急医療については，初期救急医療を担う急病診療所や二次救急医療を担う他の病院群輪番制病院との適切な役割分担の下，入院を必要とする小児を積極的に受け入れること。	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
	B	A	B	

中期計画

ア　病病・病診連携を進める中で，ヘリポートの２４時間運用や，院内体制の強化により，重症患者を中心により多くの救急患者を迅速に受け入れ，断らない救急を推進する。

【関連する数値目標】

事　　項	平成２５年度実績	第１期計画目標	第２期計画目標
救急車搬送受入患者数	５，９４９人	４，０００人	７，０００人

イ　救急専門医等の高度な救急医療を実践できる人材を育成するとともに，重症患者に対する手術・集中治療・集中管理等の必要な体制を確保することにより，三次救急医療を担う施設として必要な診療機能を整える。

ウ　京都市急病診療所や二次救急医療を担う他の病院群輪番制病院との役割分担を的確に果たすことにより，入院を必要とする小児を積極的に受け入れる。

【実績】

ア　救急告示病院（第２次救急医療機関）として，ヘリポートを２４時間運用し，救急部門と手術室及び各病棟の連携による柔軟なベッドコントロール，９列の当直体制と全診療科のオンコール体制，休日救急管理日直の配置など院内の受入体制を強化し，可能な限り救急搬送患者を受け入れた。

イ　院内外でのＥＲ勉強会やカンファレンスを開催し，当直医の初期診療能力向上に努め，看護師においても，新たな教育プログラムとして救急看護コースを開始し，看護師の救急対応能力の向上を図るなど，高度な救急医療を実践できる人材を育成するとともに，救急部門と集中治療室（ＩＣＵ）において，多職種による定期カンファレンスを実施し，救急診療体制を強化した。

ウ　小児救急医療については，京都市急病診療所の第２次後送病院として，小児科病床を確保し，小児科医師を常時配置し，小児科患者の受入れを行った。

【実績】

＜数値目標実績＞

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
救急車搬送受入れ患者数	6,787 人 (6,400 人)	5,968 人 (6,850 人)	6,178 人 (6,850 人)	5,824 人 (6,860 人)	

※（）内は年度目標

＜参考実績＞

事　　項		Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
小児救急車搬送受入患者数		813 人	792 人	860 人	753 人	
	うち入院患者数	246 人	171 人	186 人	173 人	

中期目標	1　市立病院が提供するサービス ⑷　周産期医療 　周産期医療２次病院として，ハイリスク分娩，母体搬送及び新生児搬送の受入れに対応するため，ＮＩＣＵ（新生児集中治療室）等の適切な運用を図ること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	
	新生児専門ケアに必要な人員を確保・育成し，ＮＩＣＵ（新生児集中治療室）等を適切に運用することにより，周産期医療２次病院として，ハイリスク分娩，母体搬送及び新生児搬送の受入れを積極的に行う。

【実績】

新生児集中ケア認定看護師による研修を計画的に実施したほか，療法士の小児及びＮＩＣＵのリハビリテーションに関する専門知識と技術の習得に努めるなど新生児専門ケアに必要な人材を確保・育成するとともに，京都府内の周産期医療システムにおける地域周産期母子医療センター（周産期医療２次病院）として，ハイリスク分娩に対応し，総合周産期母子医療センター等との連携の下，母体搬送及び新生児搬送を積極的に受け入れた。

ハイリスク分娩については，外来通院時から多職種カンファレンスを行うことで入院前から継続したケアを実施し，産後においてもうつの症状がみられる褥婦について，地域の関係機関と連携し育児をサポートした。

さらに，災害時の妊産婦及び新生児受入れのための必要物品を整え，手順を作成し，ＮＩＣＵと産婦人科病棟において災害対応訓練を行った。

関連指標

＜数値目標実績＞

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
ＮＩＣＵ受入れ実患者数	123 人	110 人	113 人	114 人	
母体搬入	46 件	39 件	38 件	31 件	
帝王切開率	39.1％	39.2％	36.3％	33.2％	

中期目標	1　市立病院が提供するサービス ⑸　高度専門医療 ア 地域医療支援病院 　地域のかかりつけ医等との適切な役割分担の下，高度な急性期医療を担うこと。 　また，地域の医療機関を積極的に支援することにより，地域医療支援病院として地域の医療水準の向上に寄与すること。

事業年度評価結果（小項目）

Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画

先進的な医療機能を存分に活用して，高度な急性期医療を提供するとともに，合同カンファレンス，地域医療フォーラムの開催等を通じて，地域の医療水準の向上に貢献する。

【関連する数値目標】

事　項	平成２５年度実績	第１期計画目標	第２期計画目標
手術件数	５，０１７件	４，８００件	６，０００件
紹介率	５２．９％	６０．０％	８０．０％
逆紹介率	８８．３％	８０．０％	６０．０％

（注）紹介率，逆紹介率については，算定基準の改正に伴い，平成２５年度実績及び第１期計画目標は旧算定式により，第２期計画目標は新算定式により算出している。

【実績】

高度な急性期医療を提供する病院としての役割を一層果たしていくため，紹介元の医療機関への返書の徹底，紹介患者事前予約センターの運用による紹介患者の外来診察待ち時間の解消，地域の診療所への訪問活動等に加え，紹介状の持参を推進するため，予約が可能であることや必要な検査や治療がスムーズに受けられるなどのメリットについて，ポスターや院内放送等でＰＲを行うとともに，需要に応じて紹介患者受入枠を調整するなど紹介患者を増やす取組を進めた。

地域医療従事者向けの研修として，地域医療フォーラムや地域医療連携カンファレンスを積極的に開催し，地域の医療機関と「顔の見える関係」の構築と地域医療支援病院として地域の医療水準の向上に寄与した。

関連指標

＜数値目標実績＞

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
手術件数	5,074 件 (5,250 件)	5,426 件 (5,250 件)	5,331 件 (5,500 件)	5,720 件 (5,700 件)	
紹介率	53.3% (55.0%)	56.4% (61.0%)	70.9% (66.0%)	71.5% (75.0%)	
逆紹介率	108.2% (105.0%)	109.7% (95.0%)	140.7% (95.0%)	105.8% (84.0%)	

※（）内は年度目標

＜参考実績＞

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
地域医療フォーラム （毎年２回開催）	306 人参加	295 人参加	291 人参加	369 人参加	
地域医療連携カンファレンス	12 回開催 188 人参加	12 回開催 164 人参加	12 回開催 153 人参加	11 回開催 225 人参加	

中期目標

1　市立病院が提供するサービス
⑸　高度専門医療
イ　地域がん診療連携拠点病院
　がん診療連携拠点病院等との連携を基に，外科的手術，放射線治療，化学療法などの集学的治療，成人・小児血液がんに対する造血幹細胞移植，緩和ケアの充実等幅広いがん治療の提供体制を確保すること。
　また，乳がん検診等，京都市のがん予防の取組に必要な協力を行うこと。

中期計画

　がんについては，予防・診断・治療・緩和からターミナル期までの各領域において，多職種の職員が積極的に介入し連携・協力を行う。
　手術支援ロボット（ダヴィンチ），放射線治療装置（リニアック）等の活用や，化学療法センターにおける外来治療，成人・小児血液がんに対する造血幹細胞移植，緩和ケアの充実等により，がん診療全体の質の向上を図る。
　関係機関との連携については，他のがん診療連携拠点病院や地域の医療機関等との連携を進める。
　また，乳がん検診など京都市が実施するがん予防の取組に対して必要な協力を行う。
【関連する数値目標】

事　　項	平成２５年度実績	第１期計画目標	第２期計画目標
新規がん患者数	１，３０８人	１，２００人	２，０００人
がんに係る化学療法件数	２，６４７件	－	３，９００件
がん治療延べ件数	１０，４８８件	－	１６，０００件

【実績】

　がんの早期発見のため，健診センターにおいて半日ドックや脳ドックに加え，平成２８年度に肺がんドック，平成２９年度に乳がんドックを立ち上げ，ドックメニューの充実を図り，要精密検査の場合は，受診当日に専門診療科への予約を推進し，未受診者には積極的に受診勧奨を行った。
　手術支援ロボットにおいては，保険収載されている前立腺がんを中心に着実に実績を積み上げただけでなく，平成２７年度には全国で４番目に「内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術」が先進医療として認められた。平成３０年度からは胃がんや肺がんなどにも保険適用範囲が拡大されたため，更なる活用を進めていく。
　放射線治療や化学療法については，長期休暇期間中の治療や平日治療時間の拡大など，治療の継続性を確保する取組を進め，患者ニーズに沿った治療を行った。
　血液がんに対しては，血液内科と小児科が協働し，全年齢層の血液疾患に対応でき，あらゆる造血細胞移植も施行可能である病院として診療体制を確保し，移植に取り組んだ。
　緩和ケアについては，多職種で緩和ケアのカンファレンス及びチームラウンドの実施や緩和ケア研修会を開催し，院内外の医療職の育成にも取り組んだ。
　これらの取組に加え，平成２８年度には腫瘍内科を新設し，原発不明がんや希少がん，臓器横断的ながん治療にも対応できる体制を整え，がん診療全体の質の向上を図った。
　地域の医療機関との連携としては，５大がん（肺がん，胃がん，肝がん，大腸がん，乳がん）及び前立腺がんの地域連携クリニカルパスの適用を拡大に向け，地域連携クリニカルパスへの登録依頼を積極的に行った。
　また，乳がんの検診等，京都市が実施するがん予防の取組にも引き続き積極的に協力してきた。

関連指標

＜数値目標実績＞

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
新規がん患者数	1,473 人 (1,300 人)	1,560 人 (1,500 人)	1,700 人 (1,620 人)	1,683 人 (1,850 人)	
がんに係る化学療法件数	2,490 件 (-)	2,791 件 (2,950 件)	3,774 件 (3,200 件)	4,193 件 (3,900 件)	
がん治療延べ件数	10,542 件 (-)	11,019 件 (12,100 件)	12,216 件 (13,100 件)	13,133 件 (14,000 件)	

※（）内は年度目標
（注）平成２９年度の新規がん患者数は暫定値

＜参考実績＞
○がん関連実績

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
がん地域連携パス適用件数	63 件	81 件	95 件	90 件	
ダヴィンチ手術件数	95 件	86 件	76 件	123 件	
ＰＥＴ－ＣＴ実績	1,410 人	1,640 件	1,822 件	1,995 件	
リニアック稼働件数	9,811 件	10,493 件	10,654 件	10,496 件	

中期目標	1　市立病院が提供するサービス ⑸　高度専門医療 ウ 生活習慣病への対応 (ｱ) 心臓・血管病センター及び脳卒中センターの機能発揮 心疾患や脳血管疾患に関連する既存の診療科が有機的に連携して，迅速かつ高度なチーム医療を提供すること。 (ｲ) 糖尿病治療 食事・運動療法，薬物療法により，網膜，腎臓等の合併症を予防し，生活の質を低下させないための糖尿病治療に取り組むこと。
中期計画	(ｱ)　心臓・血管病センター及び脳卒中センターの機能発揮 心血管疾患に対しては，心臓・血管病センターを中心に，関係部署が連携を図ることで，迅速で最適な治療を行い，心臓血管外科手術等の外科的治療を要する場合は他施設と適切に連携する。 脳卒中をはじめとした脳血管疾患に対しては，脳卒中センターを中心に，関係部署が連携を図り，総合的な診療を行う。 (ｲ)　糖尿病治療 関連診療科との連携により，合併症予防を含む総合的な生活習慣病予防や治療を行う。重篤な腎合併症に対しては，血液浄化センターの機能を発揮し，腎不全患者の治療に当たる。 また，糖尿病教室や腎臓病教室の開催等により，地域に対する生活習慣病予防に係る啓発活動を積極的に行う。

【実績】

(ｱ)　血管等の循環器系疾患への対応については，心臓・血管病センターにおいて，循環器内科，放射線診断科を中心に，血管病変への治療を行っている。心臓外科については，京都府立医大から医師の応援を受け，週１回，外来を設けており，手術が必要な患者については，同医大と連携して対処した。

脳神経外科と神経内科合同カンファレンスには，多職種が参加し，情報の共有と治療の方向性を統一するとともに，クリニカルパスを活用し急性期治療から早期リハビリテーションや日常生活動作再獲得への援助等の慢性期まで総合的な診療を行った。

(ｲ)　糖尿病対策チームを中心に，糖尿病透析予防指導（腎症外来）の充実や，患者会の運営に取り組むとともに，糖尿病看護認定看護師によるフットケア外来，病棟担当制の下での管理栄養士による積極的なベッドサイドでの栄養食事指導等，総合的な糖尿病療養支援に取り組んだ。

血液浄化センターにおいては，午前・午後の２クール稼働や毎週土曜日の稼働により，働く患者等の多様な透析ニーズに対応している。平成２８年度にはより多くの老廃物を取り除くことが可能なオンラインＨＤＦ（血液ろ過透析）を導入し，より質の高い透析が可能となった。

糖尿病教室や腎臓病教室においては多職種が連携し，継続して開催することで，地域に対する生活習慣病予防に係る啓発活動を積極的に行った。

関連指標

＜参考実績＞

○血管病変関連の治療実績

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
冠動脈カテーテル治療	187 件	196 件	328 件	351 件	
下肢動脈カテーテル治療	65 件	85 件	94 件	101 件	

○糖尿病関連の個別指導等実績

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
腎症外来	19 件	20 件	29 件	297 件	
フットケア外来	128 件	155 件	603 件	858 件	

○血液浄化の実施件数

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
透析件数	6,758 件	7,102 件	7,486 件	7,876 件	

中期目標	1　市立病院が提供するサービス ⑸　高度専門医療 エ 適切なリハビリテーションの実施 　適切な急性期リハビリテーションを行うとともに，転院後の効果的な回復期リハビリテーションへの引継ぎや早期の社会復帰につなげるように努めること。
中期計画	急性期リハビリテーションを集中的に実施するとともに，回復期リハビリテーション提供施設との連携を推進し，患者の各治療過程における最適なリハビリテーションを提供する。

【実績】

早期からのリハビリテーション開始に向けて，合併症予防や日常生活リズムの獲得に向けたケアを実施するとともに，リハビリテーション専門医の週１回配置，療法士の積極的な病棟カンファレンスの参加や入院時からの介入などにより，脳血管・運動器・がん・心臓・呼吸器に係る適応患者への迅速かつ集中的な急性期リハビリテーションを行った。

また，ＩＣＵでもリハビリテーションができるプロトコルを策定や，新生児へのリハビリテーションをＮＩＣＵで実施するなど，より早期からのリハビリテーションに取り組んだ。

回復期リハビリテーション提供病院との連携については，合同カンファレンスや勉強会への参加により，連携を強化し，スムーズかつ効果的な転院に努めた。

関連指標

○主なリハビリテーション件数

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
初期加算件数	29,569 件	30,865 件	39,756 件	45,518 件	
早期加算件数	16,130 件	17,944 件	23,495 件	27,524 件	
脳血管Ｉリハビリテーション	10,097 件	18,816 件	26,722 件	30,652 件	
運動器Ｉリハビリテーション	11,729 件	12,302 件	13,647 件	15,595 件	
がんリハビリテーション	5,716 件	5,853 件	5,970 件	7,143 件	
心大血管リハビリテーション	3,175 件	3,118 件	3,092 件	4,412 件	
呼吸器リハビリテーション	2,927 件	3,793 件	7,375 件	7,122 件	

中期目標	1　市立病院が提供するサービス ⑹ 多様なニーズへの対応 ア 専門外来 医療の進歩や市民ニーズの変化に応じた専門外来を開設するなど的確な対応を図ること。 イ 認知症対応力の向上 大きな社会問題になっている認知症について，その対応力を向上させることで，社会的要請に応えていくこと。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	A	A	
中期計画	超高齢化社会における医療環境や社会情勢の変化に伴う多様な市民のニーズに対し，迅速・的確に対応する。 ア　専門外来 医療需要，社会的背景を踏まえた専門外来（女性総合外来，男性専門外来，緩和ケア外来，セカンドオピニオン外来，看護専門外来，薬剤師外来，コメディカル外来等）を実施する。 イ　認知症対応力の向上 研修会等の取組を進め，認知症について正しく理解し，患者の尊厳を尊重した対応を実践できる職員の育成を行うことで，高齢化の進展と共に増加する認知症患者に適切に対応する。				

【実績】

ア　専門外来として，女性総合外来，男性専門外来，緩和ケア外来，セカンドオピニオン外来や看護専門外来（がん看護，乳がん看護，フットケア等），薬剤師外来等のコメディカル外来を実施し，市民の様々な健康ニーズに応えた。

イ　病院全体の認知症対応力向上のため，全職員を対象とした認知症サポーター養成講座，認知症ケアチームによる院内研修会等を実施するとともに，認知症ケアマニュアルを作成し，行動・心理症状や身体合併症等に対応できる体制の構築を図り，認知症患者が安心して受診できる病院づくりを推進した。

関連指標

<参考実績>

○主な専門外来

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
禁煙外来	46 件	101 件	162 件	187 件	
セカンドオピニオン	14 件	2 件	8 件	15 件	
緩和ケア外来	26 件	36 件	36 件	28 件	

○主なコメディカル外来

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
がん看護専門外来	285 件	524 件	617 件	323 件	
乳がん看護外来	72 件	103 件	241 件	192 件	
造血幹細胞移植後フォローアップ外来	18 件	45 件	52 件	62 件	
腹膜透析外来	83 件	146 件	121 件	146 件	
フットケア外来	128 件	155 件	603 件	858 件	
薬剤師外来	25 件	39 件	185 件	208 件	
ペースメーカー外来	102 件	358 件	429 件	421 件	

中期目標	1　市立病院が提供するサービス (7) 健康長寿のまちづくりへの貢献 ア 健診センター事業として人間ドック及び特定保健指導を積極的に行うこと。 イ 健康教室の開催，患者会の支援等による市民への啓発の取組を進めること。

事業年度評価結果（小項目）

Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
A	A	A	

中期計画	市民に開かれた病院としての取組を推進し，市民がすこやかに暮らせる健康長寿のまちづくりへの貢献を果たす。 ア　人間ドックについては，がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病等を対象とした専門ドック等，多様性のあるメニューやオプション検査の充実を図り，特定保健指導についても，より効果的な指導の実施に努めることで，市民の積極的な受診を促進する。 イ　健康教室など市民ニーズを踏まえた市民公開講座を実施し，患者会についても積極的に支援することにより，市民の主体的な健康づくりに寄与する。

【実績】

ア　人間ドックについては，半日ドックや脳ドックに加え，平成２８年度に肺がんドック，平成２９年度に乳がんドックを立ち上げるなど，ドックメニューの充実を図るとともに，検査当日に結果説明を行い，要精密検査については受診当日に専門診療科の予約を推奨するとともに，健診成績表送付時にも要精密検査の診療予約案内を同封するなど，スムーズに専門的な診察に移行できる仕組みを整えてきた。

　特定保健指導については，積極的に保健指導対象者への受診奨励を行い，対象者への生活指導を実施してきた。

イ　健康教室「かがやき」や母親教室，糖尿病教室，禁煙教室等の市民公開講座を定期的に開催したほか，乳がんや感染症予防等に関する地域への出前講座も実施し，積極的な地域への啓発事業を行った。

　患者会については，引き続き，がん患者・家族のサロン「みぶなの会」やビスケットの会（乳がん），聚楽会（糖尿病）等の患者会に対する支援を行った。

関連指標

＜参考実績＞

○健診センターの実績

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
半日ドック	3,047 件	3,185 件	3,319 件	3,343 件	
脳ドック	755 件	784 件	881 件	809 件	
肺がんドック※1	－	－	1 件	3 件	
乳がんドック※2	－	－	－	57 件	

※１　平成２８年１１月から開始
※２　平成２９年８月から開始

○主な教室等の実施状況

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
健康教室「かがやき」	421 人	398 人	435 人	547 人	
母親教室	308 人	252 人	286 人	286 人	
糖尿病教室	351 人	345 人	291 人	223 人	
禁煙教室	169 人	114 人	46 人	53 人	

		事業年度評価結果（小項目）			
中期目標	２　京北病院が提供するサービス ⑴ 市立病院と京北病院の一体運営 ア　総合情報システムの共通化 市立病院と電子カルテを含めた総合情報システムを共通化することにより，医療の質や患者サービスの向上を図ること。 イ　人事交流の更なる推進 市立病院との人事交流を推進することにより，診療体制を強固なものとし，また，双方の病院の長所を取り入れ，より良い患者サービスの提供に努めること。	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	
中期計画	ア　総合情報システムの共通化 電子カルテを含めた総合情報システムを市立病院と共通化し，一体的な法人内の情報ネットワーク体制を構築することで，市立病院の医療機能を一層活用し，医療の質及び患者サービスの向上を図る。 イ　人事交流の更なる推進 市立病院の医師や専門資格を持つ多職種による人的協力体制の強化，人事交流の推進により双方の病院の長所を業務上に反映させるなど，更なる患者サービスの向上を図る。				

【実績】

ア　平成２７年度に両院共通の電子カルテシステムを含む総合情報システムを整備し，両病院間で患者情報をリアルタイムで共有し，迅速かつ的確な診療サービスを提供するための基盤を整えた。

また，平成２８年２月から両院間を結ぶ患者送迎車の運用を開始し，市立病院の化学療法やＭＲＩ等の高度医療機器による検査等，市立病院の医療機能の一層の活用に努めてきた。

イ　診療体制の確保に当たっては，市立病院から内科，外科，皮膚科，整形外科，小児科，眼科等の各診療科の医師をはじめ，臨床検査技師等の医療技術職の派遣を行うとともに，看護師や作業療法士等を法人内の異動で配置するなど，人事交流の推進に努めた。

また，市立病院の専攻医，研修医については，医師教育の一環としてローテーション等で京北病院に派遣した。

関連指標

＜数値目標実績＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
訪問診療件数	1,059 件 (960 件)	1,819 件 (1,360 件)	2,083 件 (1,600 件)	1,922 件 (1,800 件)	
訪問看護件数	6,347 件 (5,800 件)	6,930 件 (6,500 件)	7,064 件 (6,600 件)	6,647 件 (6,750 件)	

※（）内は年度目標

＜参考実績＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
一般病床利用率	71.6% (71.1%)	71.2% (71.1%)	70.1% (71.1%)	65.7% (71.1%)	
入院延べ患者数	9,933 人 (9,855 人)	9,907 人 (9,889 人)	9,720 人 (9,855 人)	9,116 人 (9,862 人)	
外来延べ患者数	31,069 人 (33,320 人)	30,613 人 (31,590 人)	29,019 人 (31,720 人)	28,355 人 (31,720 人)	

※（）内は年度目標

<table>
<tr><td rowspan="3">中
期
目
標</td><td rowspan="3">２　京北病院が提供するサービス
⑵ 京北病院の機能強化の検討
　在宅療養支援病院としての役割を果たすべく体制を整備すること。また，地域のニーズに応じ，地域包括ケアの拠点病院として，京北病院の機能強化について検討すること。</td><td colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</td></tr>
<tr><td>Ｈ２７</td><td>Ｈ２８</td><td>Ｈ２９</td><td>Ｈ３０</td></tr>
<tr><td>B</td><td>A</td><td>A</td><td></td></tr>
<tr><td>中
期
計
画</td><td colspan="5">　在宅療養支援病院としての体制整備を進めるとともに訪問看護ステーションの機能強化を行うことで，地域包括ケアの推進に当たり，京北地域において中心的な役割を担い，地域ニーズに応える。</td></tr>
</table>

【実績】

　患者が安心して療養生活を送れるよう，２４時間往診対応及び急変時の入院の受入れができる体制等を整え，平成２７年４月には，在宅療養支援病院の施設認定を取得し，在宅での看取りにも対応してきた。

　また，機能強化型訪問看護ステーションを目指し，訪問看護にも積極的に取り組んできたほか，いきいき京北地域ケア協議会に参画している関係機関との連携を深め，京北地域における地域包括ケアの中心的役割を担った。

　さらに，退院後の在宅療養生活を見据えて在宅復帰支援を行うため，専従のリハビリスタッフを配置し，地域包括ケア病床を開設し，積極的な運用に努めた。

関連指標

＜参考実績＞

○往診件数

平成２６年度　３３１件
平成２７年度　２６８件
平成２８年度　２７２件
平成２９年度　２３０件

中期目標	2　京北病院が提供するサービス (3) へき地医療 ア　京北地域における人口の動向や高齢化の進展などによる疾病構造や地域の医療ニーズの変化を踏まえた適切な入院・外来診療体制を確保し，総合診療専門医の確保及び育成を目指すこと。 イ　京北病院へのアクセスの確保に取り組むとともに，訪問診療，訪問看護など，在宅医療・介護サービスの提供を適切に行うこと。

事業年度評価結果（小項目）

Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画

ア　法人として人的協力体制を整備することで，適切に入院・外来診療を行う。
　また，地域医療の担い手として，幅広い領域の疾病等に対して適切な初期対応と継続診療を全人的に提供できる総合診療専門医を確保・育成する。
イ　患者送迎サービスを継続して実施するとともに，診療所の利便性向上について検討を行う。また，訪問診療や訪問看護等の在宅医療・介護サービスの充実を図る。
【関連する数値目標】

事　　項	平成２５年度実績	第１期計画目標	第２期計画目標
訪問診療件数	６１１件	９６０件	１，４４０件
訪問看護件数	５，７７５件	５，６００件	６，７００件

（注１）訪問診療件数には，往診の件数を含む。
（注２）訪問看護件数には，訪問リハビリテーションの件数を含む。

【実績】

ア　市立病院から内科，外科，皮膚科，整形外科，小児科，眼科等の各診療科の医師をはじめ，臨床検査技師等の医療技術職の派遣を行うとともに，看護師や作業療法士等を法人内の異動で配置するなど，応援体制を継続した。
　また，市立病院の専攻医，研修医については，医師教育の一環としてローテーション等で京北病院に派遣した。
イ　京北地域内における患者送迎サービスを継続して行うとともに，平成２８年２月から両院間を結ぶ患者送迎車の運用を開始し，市立病院の化学療法やＭＲＩ等の高度医療機器による検査等，市立病院の医療機能の一層の活用に努めてきた。
　また，訪問診療や訪問看護等の在宅医療についても積極的に取り組み，第２期中期計画目標値を上回る実績を初年度から挙げることができた。

関連指標

＜数値目標実績＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
訪問診療件数	1,059 件 (960 件)	1,819 件 (1,360 件)	2,083 件 (1,600 件)	1,922 件 (1,800 件)	
訪問看護件数	6,347 件 (5,800 件)	6,930 件 (6,500 件)	7,064 件 (6,600 件)	6,647 件 (6,750 件)	

※（）内は年度目標

＜参考実績＞

○京北—市立病院患者送迎車　のべ利用者数
　迎え　２６０名（平成２８年度　１７１名）
　送り　２４５名（平成２８年度　１５６名）

中期目標	２　京北病院が提供するサービス ⑷　救急医療 京北地域における唯一の救急告示病院として，救急医療を提供する役割を的確に果たすこと。また，高度な医療を要する患者については，市立病院をはじめとする市内中心部の急性期医療機関と連携し，これらの医療機関に転送すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		A	A	A	

中期計画	
	市立病院との一体的運営の下，京北地域における唯一の救急告示病院として，初期救急医療を提供する役割を果たす。高度医療を必要とする患者については，市立病院を中心に市内中心部の急性期医療機関と連携を図ることで適切な対応を行う。

【実績】

京北地域における唯一の救急告示病院として，院外心停止や重症患者を積極的に受け入れ，初期救急医療の提供に努めた。

手術や高度医療機器を用いた検査等を必要とし，京北病院での対応が困難な患者については，市立病院をはじめ市内の高度急性期医療機関に搬送するなど，適宜連携を図り適切に対応した。また，緊急性のある症例については，ヘリコプターによる患者搬送を行った。

関連指標

＜参考実績＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
救急患者数	2,268 件	2,213 件	2,066 件	2,224 件	
市内病院への搬送数	45 件	64 件	69 件	72 件	
うち市立病院への搬送	26 件	34 件	38 件	41 件	
ヘリコプター搬送数	13 件	22 件	23 件	25 件	
うち市立病院への搬送	8 件	13 件	15 件	15 件	

中期目標	2　京北病院が提供するサービス ⑸ 介護サービスの提供 介護老人保健施設を中心とし，できる限り住み慣れた地域や住まいで自立した生活が送れるよう支援していく施設介護サービス及び居宅介護サービスを提供すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		A	A	A	

中期計画	介護サービスの提供に当たっては，居宅介護支援事業所によるマネジメントの下，介護老人保健施設による施設介護サービスから，訪問看護及び通所リハビリテーション等による居宅介護サービスに至るまで，幅広く提供する。

【実績】

介護老人保健施設による施設介護サービスから，訪問看護及び通所リハビリテーション等による在宅介護サービスまで，居宅介護支援事業所が行うケアマネジメントの下，幅広く介護サービスを提供した。

関連指標

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
介護老人保健施設稼働率	87.4% (89.7%)	91.2% (91.7%)	89.4% (91.7%)	88.9% (91.7%)	
訪問看護件数	6,347 件 (5,800 件)	6,930 件 (6,500 件)	7,064 件 (6,600 件)	6,647 件 (6,750 件)	
通所リハビリテーション	2,522 人 (2,400 人)	2,535 人 (2,400 人)	2,493 人 (2,400 人)	2,581 人 (2,400 人)	
居宅介護支援事業所利用者数	23 人 (-)	200 人 (320 人)	351 人 (390 人)	396 人 (390 人)	

第４　市民に対する安心・安全で質の高い医療を提供するための取組に関する事項

<table>
<tr><td rowspan="3">中
期
目
標</td><td rowspan="3">１ チーム医療，多職種連携の推進
必要な医療専門職を確保するとともに，各医療専門職が最大限の専門性を発揮し，迅速かつ高度なチーム医療を推進すること。</td><td colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</td></tr>
<tr><td>Ｈ２７</td><td>Ｈ２８</td><td>Ｈ２９</td><td>Ｈ３０</td></tr>
<tr><td>Ａ</td><td>Ａ</td><td>Ａ</td><td></td></tr>
<tr><td>中
期
計
画</td><td colspan="5">多職種カンファレンスの充実，入院早期からの退院を見据えた多職種による診療計画の策定など，各医療専門職が連携し，それぞれの専門性を最大限に発揮できる多職種連携の業務執行体制を一層推進する。
また，栄養サポートチーム，緩和ケアチームなど各分野におけるチーム医療について充実を図ることで，患者中心の最適な医療の提供に努める。</td></tr>
</table>

【実績】

入院時に多職種でカンファレンスを実施し，薬剤師，管理栄養士，ＭＳＷにおける病棟担当制などにより，入院早期から各医療専門職が連携して，退院に向けた効率的かつ効果的な診療に取り組んできた。

さらに，平成２７年度には，入院支援センターを立ち上げ，入院予定の患者を対象に，現在の生活状況や治療後の状態を見据えた転退院後の生活，薬剤師による持参薬鑑別等を行うとともに，入院前から入院及び治療に向けた準備だけでなく，転退院に向けた支援を開始することで，スムーズな入院と治療や手術の実施，転退院を推進した。

また，安全かつ効果的な治療のため，栄養サポートチーム，呼吸ケアチーム，褥瘡対策チーム，感染対策チーム及び緩和ケアチーム等の多職種からなる専門的なチームを組織し，それぞれの専門性を生かし，最適な医療の提供に努めた。

関連指標

＜参考実績＞

事　項	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
入院支援センター件数	2,616 件	5,279 件	5,340 件	

※平成２７年１０月開始

中期目標	２ 安全で安心できる医療の提供に関する事項 ⑴ 医療安全に係る組織やマニュアルを不断に見直し，職員に対して効果的な教育を実施することにより医療安全体制を強化すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	⑴ 病院に設置する委員会において，医療安全に係る課題について継続的な議論を行うとともに，医療安全研修の充実等に取り組むことにより，医療安全体制の強化を図る。

【実績】

医療安全管理マニュアルやスタッフハンドブックについて適宜見直すとともに，院内でのインシデント・アクシデント報告の積極的な提出を呼びかけた。

医療安全管理委員会において，インシデント及びアクシデント事例の迅速な把握，分析を行うとともに，リスクマネジメント部会において，毎年テーマを決め，安全対策に関する活動を行った。各部署には部署安全マネージャーを配置し，部署の医療安全に関する課題解決に取り組んだ。

研修計画のもと全職員対象に医療安全研修を実施，平成２７年度からは e-ラーニングを導入し，当日参加できない職員への受講を呼びかけるなど，病院全体の医療安全体制の強化を図った。

関連指標

＜参考実績＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
医療安全研修受講者数	1,955 人	1,480 人	1,844 人	1,647 人	

中期目標	2 安全で安心できる医療の提供に関する事項 ⑵ 問題症例の検討や院内事故調査委員会の機能強化を図り，事故の再発防止に取り組むこと。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	A	A	

中期計画	
	⑵ 医療安全レポートの迅速な提出を徹底するとともに，統計に基づく適切な予防・対策及び重要・警鐘事例については症例検討等による調査・分析を実施することで，事故の再発防止に取り組む。 また，重大事例については，外部委員を含む医療事故調査委員会において適切に対応する。

【実績】

全職員を対象に医療安全レポート提出を呼びかけるとともに，レポートの重要性についての研修会を実施するなど，提出に対する職員の意識の向上を図った。

重大・警鐘事例については，事例検討を行い，調査・分析手法を用いて，迅速に適切な再発防止策を講じることで事故の再発防止に努めた。

医療事故発生時には，医療法に基づき医療事故調査委員会を開催した。

関連指標

＜参考実績＞

○医療安全レポートの提出状況

＜市立病院＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
インシデント	2,011 件	2,459 件	2,952 件	3,187 件	
アクシデント	65 件	62 件	56 件	56 件	
合　計	2,076 件	2,521 件	3,008 件	3,243 件	

＜京北病院（医療）＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
インシデント	174 件	126 件	170 件	132 件	
アクシデント	3 件	3 件	3 件	3 件	
合　計	177 件	129 件	173 件	135 件	

＜京北病院（介護）＞

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
インシデント	92 件	42 件	76 件	97 件	
アクシデント	1 件	0 件	1 件	1 件	
合　計	93 件	42 件	77 件	98 件	

中期目標	３ 医療の質，サービスの質の向上に関する事項 ⑴ 医療の質の向上に関すること ア 評価指標の活用や第三者機関の評価を受けることにより，医療の質の向上に努めること。 イ 高度かつ標準的な医療を提供することができるよう，医療専門職の知識・技術の向上を図り，必要となる機器及び設備の計画的な充実に努めること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		A	A	A	

中期計画	
	ア 医療の質に関する客観的な指標の分析や外部の評価機関による評価結果の公表，分析・活用により，継続的な医療の質向上の取組を推進する。 イ 最新の知見や資格の習得等に寄与する学会・研修会への参加等に係る支援を積極的に実施することで，医療専門職の知識・技術の習得を促進し，高度かつ標準的な医療の提供に努める。 また，医療機器については，整備・更新計画を策定し，費用対効果や稼働目標・実績等の検証を行うことで，効果的な運用を図る。

【実績】

ア 市立病院が独自に設けている臨床指標（クリニカル・インディケーター）について，平成２７年度からバランスコアカードの視点を取り入れて，従来の１０分野４１項目から１３分野４７項目に整理し，改善に努め，その実績を診療概要及びホームページにおいて公表した。また，日本病院会の「ＱＩ（クオリティー・インディケーター）推進事業」，全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」に参加し，当該指標に基づく実績を定期的に把握するとともに，医療の質推進委員会で報告し，全国値との比較を行い，課題の把握，改善のための計画，その取組状況の報告を行うことで医療の質向上のＰＤＣＡサイクルを促進した。

平成２８年度には，日本医療機能評価機構から案内される期中の確認を行い，指摘事項の見直し，改善事項の確認を行い，更なる医療の質の向上につなげた。

イ 医療専門職の知識・経験の向上を図るため，学会出張や研修会への参加，専門性に関する資格保持に対する補助を行うなど，最新の知見の取得や専門性向上の支援を積極的に行った。

医療機器管理委員会において，医療機器整備計画を策定し，機器導入後の維持コスト等も勘案したうえで，優先度（緊急度・必要度）が高いものから機器更新等を行った。

また，京北病院においては，市立病院使用機器の再利用を行ったほか，両病院の医療需要に勘案して効果的かつ効率的な機器整備を実施した。

関連指標

＜参考実績＞

＜参考実績＞

○専門性維持に関する補助の実施状況

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
医師等の専門性に関する資格維持に対する補助	145 件	141 件	172 件	179 件	

○高額医療機器の利用状況

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
ＰＥＴ－ＣＴ実績	1，410 人	1，640 件	1，822 件	1，995 件	
リニアックによる強度変調放射線治療（ＩＭＲＴ，ＶＭＡＴ）	2，294 件	2，838 件	2，790 件	2，424 件	
ロボット支援手術件数	95 件	86 件	76 件	123 件	

		事業年度評価結果（小項目）			
中期目標	３ 医療の質，サービスの質の向上に関する事項 ⑵ 患者サービスの向上に関すること ア 患者満足度を客観的に把握したうえで，継続的な改善策を講じ，患者サービスの向上を図ること。 イ 市民ボランティアと職員の協働の積極的な推進や，市民モニターの活用を通じて，市民目線でのサービスの向上に努めること。	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		A	A	A	

中期計画

ア　ご意見箱や患者満足度調査，市民モニター制度等を活用し，継続的に業務改善に取り組む。
また，待ち時間の短縮や，施設面における快適性・利便性の確保を通じて，患者の療養環境の充実を図る。
職員の接遇については，適切な研修計画を立案し，効果的な教育を実施することで，接遇・応対力の更なる向上に努める。

イ　ボランティアとの協働や市民モニターの活用
ボランティア事業については，市民ボランティア登録者数の増加や，活動領域の拡大により，ボランティア活動の更なる充実を図る。
市民モニター制度については，実践的なモニタリングを通じて市民目線による評価及び提案を受けることで業務改善の促進を図る。

【実績】

ア　市立病院においては，ご意見箱，患者満足度調査，市民モニター制度等で患者等から寄せられた意見について，サービス向上委員会を中心に業務改善に努めた。また，患者満足度調査結果及びご意見箱の意見を参考に，各部署で課題抽出，取組計画の策定のうえ業務改善活動に取り組み，ＰＤＣＡサイクルを促進した。特に優秀と認められた部署については，院内で発表及び表彰を行い，病院全体で共有することで，今後の改善活動の促進につなげた。

平成２７年度には，入院支援センターを開設し，入院前から患者情報を収集し，多職種関与による診療計画の作成に努めたほか，様々な患者要望に応えるため，放射線や化学療法の治療を必要とする患者に治療を継続するための休日開院の実施や，患者送迎巡回バスの運用を開始した。平成２９年度には，平日の外来における手話通訳の常駐化や，多言語での医療通訳の可能なサービスを導入し，更なるサービス向上を図った。

京北病院においては，京北地域内における患者送迎サービスを引き続き実施するとともに，平成２７年度に高度医療機器による検査及び透析治療等，京北病院では対応困難な患者を対象に，市立病院と京北病院を結ぶ患者送迎車の運用を開始し，定着した。

市立病院外来患者待ち時間については，待ち時間短縮に向けて協議し，初診紹介患者を対象にアンケート調査を実施し，分析を行ったほか，かかりつけ医促進を掲げたポスターの貼出しや院内放送を行った。また，採血室においては看護師によるコンシェルジュの配置，レイアウト変更等療養環境の充実を図った。さらに，職員の接遇については，新規採用職員のほか，協力企業職員を含む全職員を対象とした研修を毎年実施し，機構全体で接遇及び応対力の向上に努めた。

京北病院においても，患者満足度調査結果や地域の関係機関から寄せられる情報を基に患者ニーズの把握とサービスの向上に取り組んだ。

イ　市立病院のボランティアは，外来の案内や支援，小児科病棟での遊びを中心とする患者対応等について病院職員と協働した。ボランティア活動員の活性化に向けて，患者ニーズを反映するとともに意欲ある活動員を積極的に募集し，ボランティアの充実に努めた。

市立病院の市民モニター制度については，市民モニター会議を年に２回開催し，市民から市立病院の患者サービスについて評価と提案を受け，サービス向上委員会で改善に向けた議論を行った。

関連指標

＜参考実績＞

○ご意見に占める感謝の割合（市立病院）

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
投書件数	526	535	605 件	563 件	
感謝件数	182	208	275 件	217 件	
割合	35.0%	38.9%	45.5%	38.5%	

○患者満足度調査における満足の割合

＜市立病院＞

事項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
入院	60.6%	70.0%	70.8%	63.9%	
外来	36.9%	43.2%	47.0%	49.2%	

○患者満足度調査における良いと回答した患者の割合

＜京北病院＞

事項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
入院	77.7%	84.7%	85.7%	92.0%	
外来	80.3%	79.3%	83.7%	89.0%	
老健	75.0%	88.3%	82.3%	87.3%	

※京北病院アンケート調査結果について，平成２９年度については，「満足，やや満足，普通，やや不満，不満」の５段階評価となり，「満足」と回答した患者の割合を示している。

関連指標

＜参考実績＞

○ご意見箱・ボランティア

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
ボランティア活動員数（実動員）	19 人	14 人	14 人	14 人	

○市民モニター会議

	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８
内容	・京都市立病院概要説明 ・救急室モニタリング ・病院食検食 ・意見交換	・市立病院概要説明 ・外来モニタリング（初診患者，再診患者） ・病院食検食 ・意見交換	・市立病院概要説明 ・外来モニタリング（待ち時間，お見舞い） ・病院食検食 ・意見交換
内容	・北側新施設見学 ・ご意見箱モニタリング ・利便施設（売店，食堂等）にて昼食 ・意見交換	・入院支援センター，病棟（６ＡＢ），利便施設（売店，理容室）モニタリング ・利便施設（売店，食堂等）にて昼食 ・意見交換	・患者送迎バス，健診センターモニタリング ・利便施設（売店，食堂）にて昼食 ・意見交換

	Ｈ２９	Ｈ３０
内容	・京都市立病院概要説明 ・利便施設（理容室，コンビニ，患者図書室），外来エリア（掲示物）モニタリング ・病院食検食 ・意見交換会	
内容	・利便施設（売店，食堂）にて昼食 ・第１回目の振り返り ・院内コンサートモニタリング	

中期目標	4 適切な患者負担の設定 誰もが公平な負担で，必要かつ十分な医療を受けることができるよう，適切な料金を定めること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	
	誰もが公平な負担で，必要かつ十分な医療を受けることができるよう，適切な料金を定め，運用する。

【実績】

誰もが公平な負担で,必要かつ十分な医療を受けることができるよう,各種料金の額については,病院等管理規定で定め，適正に運用した。

平成２８年４月に，初診時選定療養費を３，２４０円から５，４００円に改定，再診時選定療養費の定額負担金２，７００円を新設し，紹介状の持参を呼びかけ，地域の医療機関との機能分化と連携を推進した。

関連指標

〇紹介率

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
紹介率	53.3%	56.4%	70.9%	71.5%	

第５　業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標	１　迅速性・柔軟性・効率性の高い運営管理体制の充実 ⑴ 迅速かつ的確な組織運営 地方独立行政法人の利点をいかして，理事長のリーダーシップによる迅速な意思決定と組織的な業務運営を図ること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	
中期計画	理事長のリーダーシップによる迅速な意思決定を行うとともに，理事会の適正な運営や院内会議・委員会等における効率的な業務執行を通じて，組織的な業務運営を図る。				

【実績】

常任理事者会議で理事長が迅速に意思決定を行い，その方針を，市立病院では，毎週の診療管理委員会や毎月の診療部長会議，半期ごとの理事長ヒアリング等（全診療科・病棟・部門を対象）において，京北病院については，京北病院長との面談において，理事長自らが指示するとともに，経営状況分析に基づく数値目標等を示し，医師の経営参画を促した。

また，経営企画会議等において，理事会での審議内容等を幹部職員に伝達し，迅速な対応につなげるとともに，幹部職員間での情報共有のために，部課長会議において全ての委員会活動の報告を行った。

さらに，四半期ごとに理事長指示の取組や年度計画の実績報告を行うなど，ＰＤＣＡにより，組織的な業務運営を図った。

そのほか，診療部担当部長を３人体制とした診療部の管理体制を強化や，腫瘍内科や周術期統括部の設置等，必要に応じて，弾力的な組織の見直しを行った。

関連指標

<table>
<tr><td rowspan="3">中
期
目
標</td><td rowspan="3">１　迅速性・柔軟性・効率性の高い運営管理体制の充実
⑵ 情報通信技術の活用
　電子カルテや医事会計システム等を含めた総合情報システムの更新により，効率的かつ効果的な運用に努めること。</td><td colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</td></tr>
<tr><td>Ｈ２７</td><td>Ｈ２８</td><td>Ｈ２９</td><td>Ｈ３０</td></tr>
<tr><td>Ｂ</td><td>Ａ</td><td>Ａ</td><td></td></tr>
<tr><td>中
期
計
画</td><td colspan="5">　電子カルテを含めた総合情報システムを更新し，市立病院及び京北病院のネットワーク環境の一元化を図ることにより，効率的な情報管理を行う。</td></tr>
</table>

【実績】	関連指標
平成２７年度に電子カルテシステムを含む総合情報システムを市立病院で更新し，京北病院でも新規導入を行い，両病院間で患者情報をリアルタイムで共有し，迅速かつ的確な診療サービスを提供するための基盤を整えた。	

中期目標	2 優秀な人材の確保・育成に関する事項 (1) 医療専門職の確保 医療機能を十分に発揮できるよう，必要な医療専門職を確保すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画

法人の役割及び医療機能を最大限発揮するに当たり必要な医療専門職を確保するため，柔軟な職員採用を行う。
医師については，市立病院において高度医療を担う専門性の高い医師の，京北病院においては幅広い領域に関する知識と経験を有する総合診療専門医の確保・育成を図る。
看護師については，重症度，医療・看護必要度を踏まえた必要な人員を確保する。
また，チーム医療を推進するための多様な医療専門職についても必要十分な人員の確保を図る。

【実績】

救急医療体制を強化するため，脳神経外科医及び総合内科医を採用するとともに，高度な手術件数の増加を狙い，麻酔科の体制を強化した。また，新専門医制度の開始に当たり，医師の確保に努めるとともに，総合診療専門医育成に当たっては，京北病院での１箇月間の地域医療研修を義務付けた研修プログラムを策定した。

その他，看護師をはじめ医療技術職や事務職においても，経験者など現場で即戦力となる人材を柔軟に採用し，医療機能を最大限発揮できる体制づくりを行った。

関連指標

＜参考実績＞

○コメディカルの職員数

＜市立病院＞

	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
放射線技師	29	30	30	30	31
薬剤師	25	26	28	28	30
検査技師	23	23	24	23	24
工学技士	10	10	11	11	12
管理栄養士	5	7	7	7	8
リハビリ	13	13	19	20	22
ＭＳＷ	6	8	10	9	10
事務その他	58	56	54	52	53
合　計	169	173	183	180	190

＜京北病院＞

	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
放射線技師	1	1	1	1	1
薬剤師	2	2	2	2	2
検査技師	1	1	1	1	1
管理栄養士	1	1	1	1	1
リハビリ	3	3	3	4	4

ＭＳＷ	0	0	0	0	0
事務その他	4	5	5	5	4
合　計	12	13	13	14	13

※職員数には休職者，京北病院の看護師には准看護師含む

<table>
<tr><td rowspan="3">中期目標</td><td rowspan="3">２ 優秀な人材の確保・育成に関する事項
⑵ 人材育成・人事評価
ア 人材育成
　医療，介護等に関する倫理観と専門知識・技術を持った職員の計画的な育成に努めること。
イ 人事評価
　職員の意欲及び主体性の向上並びに組織の更なる活性化のため，職員の能力，勤務実績を適正に評価する人事評価システムの適切な運用を図ること。</td><td colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</td></tr>
<tr><td>Ｈ２７</td><td>Ｈ２８</td><td>Ｈ２９</td><td>Ｈ３０</td></tr>
<tr><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td></td></tr>
<tr><td>中期計画</td><td colspan="5">ア　人材育成
　医療に関する倫理観と専門知識・技術を計画的に高めるため，教育研修センター（仮称）を設置し，総合的な研修計画の立案・実施・評価及び研修に係る職員情報の一元化を図ることで，教育研修機能を充実させる。
　また，専門性向上のための学会・研修会等への参加や専門資格の取得を奨励することで，職員の知識・技術等の向上を図る。
イ　人事評価
　全職員を対象に実施し，公正な運用を行うことで，職員の業務に対する意欲や目的意識の向上を目指すなど，人材の育成と組織の活性化を図る。
　また，評価結果については，人事評価制度の趣旨を踏まえ，職員研修等において適切に活用する。</td></tr>
</table>

【実績】

ア　人材育成

　全職員必須の研修や新規採用職員の研修，医療専門職の院内研修など，体系的な研修の実施に向けて，研修実施状況を把握するとともに，研修プログラムやスケジュール等の検討を進めた。

　また，研修会や学会に定期的に派遣し，伝達研修を実施するとともに，多職種連携及び相互理解を深めていくために，各職種の業務理解の勉強会を実施した。

　業務に必要な資格取得に係る費用や，国内外の学会参加等に係る出張旅費，参加費等を支給し，専門資格の取得や高度な医療技術取得を支援した。

イ　人事評価

　職場ミーティング等により所属長が定めた組織目標に従い，各人が個別の目標を定め，上司との面談を行い，公正，客観的に評価し，開示を行う人事評価制度について，評価者及び被評価者を対象とした研修を行い，制度の安定的運用を図った。

関連指標

＜参考実績＞

○専門性維持に関する補助の実施状況

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
医師等の専門性に関する資格維持に対する補助	145 件	141 件	172 件	179 件	

中期目標	2 優秀な人材の確保・育成に関する事項 ⑶ 職員満足度の向上 職員のワークライフバランスを確保するとともに，職員が誇りや働きがいを持って職責を果たすことができるよう，職員の働きやすい環境を整備すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	B	B	
中期計画	多様な勤務形態の提供等により，職員のワークライフバランスの確保に努めるとともに，労働安全衛生に係る取組の充実を図ることにより，職員の働きやすい環境を整備する。 また，人材育成や人事評価を適切に行うとともに，職員提案制度の充実による業務改善，業務遂行の意識の向上等により，職員が自信と誇りを持ち，働きがいを感じることのできる職場環境を構築する。				

【実績】	関連指標
長時間勤務の解消や時間外勤務の縮減及び年次休暇等の積極的な取得等に向けて，定期的に呼びかけを行うとともに，定時退勤日を設定し，退勤を促すなどの取組を進めた。 安全衛生委員会を毎月開催し，安全衛生教育，定期健康診断の受診状況，公務災害の発生要因等について調査審議するとともに，産業医による職場巡視を毎月行い，職場指導を行った。 新規採用職員や人事異動後の職員を対象とする面談を実施したほか，法人内外に設置しているメンタルヘルス，ワークライフバランス等に関する相談窓口の周知を行い，職員からの相談体制を整えた。 職員が自信と誇りを持ち，働きがいを感じることのできる職場環境の構築に向けて，職員満足度調査を継続して実施し，職場における業務遂行及びコミュニケーションにおける課題等の調査結果を踏まえ，職員にとって働きがいのある職場づくりに向けて取り組んだ。	

<table>
<tr><td rowspan="3">中
期
目
標</td><td rowspan="3">３ 給与制度の構築
職員の人事評価や法人の業務実績等に応じた給与制度を構築するとともに，職員給与は，常に社会情勢に適合したものとすること。</td><td colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</td></tr>
<tr><td>Ｈ２７</td><td>Ｈ２８</td><td>Ｈ２９</td><td>Ｈ３０</td></tr>
<tr><td>Ａ</td><td>Ａ</td><td>Ａ</td><td></td></tr>
<tr><td>中
期
計
画</td><td colspan="5">人事評価制度や法人の業務実績等を反映し，職員の努力が報われ組織全体の意欲の喚起につながるとともに，社会情勢に適合した独自の給与制度を構築する。</td></tr>
</table>

【実績】	関連指標
法人として主体的に給与を決定するため，法人独自の新たな人事給与制度を構築した。医師の人事評価について，給与や処遇への反映を検討するとともに，社会情勢等を踏まえ，特殊勤務手当の見直しを行った。	

		事業年度評価結果（小項目）			
中期目標	４　コンプライアンスの確保 研修の実施等により職員のコンプライアンスに対する意識を向上させるとともに，情報公開の徹底や，法人内外からのチェックなどによりコンプライアンスの確保を図ること。	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	B	A	
中期計画	法人の理念，病院憲章，倫理方針及び医療法その他の関係法令等の遵守について職員研修を充実し，職員の意識を向上させるとともに，日々の業務を通じて規程・基準の点検・改善を行うことにより，組織全体のコンプライアンスの定着を図る。 また，情報公開を推進するとともに，監事及び会計監査人等法人内外のチェック機能を活用した取組を推進する。				

【実績】

新規採用職員研修において，法人理念や病院憲章等の研修を行うとともに，全職員を対象としたコンプライアンス研修を実施し，職員の倫理・規範意識の向上に努めた。

会計規程や契約規程等の規定類のほか，理事会の概要，財務諸表等，評価委員会の評価結果，臨床指標や病院指標等について，ホームページにて積極的に公開するとともに，市立病院の広報誌「やすらぎ」や「診療概要」，京北病院の「スマイル通信」等において，病院の特色や診療実績・診療技術等の情報公開を行った。

監事及び会計監査人の決算監査を受審し，棚卸実施方法等指摘された事項について適切に改善した。

平成３０年４月の改正地方独立行政法人法の施行に合わせて，適正な業務を確保するための体制や権限を強化するため，法人の業務方法書をはじめ，役職員の倫理の保持に関する規程や医療情報，個人情報等に関する規程を改正するとともに，内部統制に関する基本方針やコンプライアンス推進規程，監事監査規程等の新規策定を行い，法人内外からのチェック体制を更に強化した。

関連指標

中期目標	5 個人情報の保護 職員に個人情報を保護することの重要性を認識させ，その管理を徹底させること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	B	B	

中期計画	法人の個人情報保護方針及びその他の関係法令等を遵守し，個人情報の保護を図る。また，研修の充実，個人情報管理の取組を推進することにより，組織全体の個人情報保護意識の徹底を図る。

【実績】	関連指標
番号法の施行に伴い，法人の個人情報保護規程を見直すとともに，人事給与関係事務における特定個人情報の取扱要綱を制定し，マイナンバーの適正管理に取り組んだ。 外部講師を招き，全職員を対象とした個人情報保護研修を市立病院及び京北病院で開催し，e-ラーニングを活用するとともに，新規採用や医師事務作業補助者の採用時に担当職員が研修を行うなど，職員研修を充実させ，個人情報保護意識の醸成を図った。 インシデントレポートを用いた検討・分析に加え，地方独立行政法人法の改正趣旨を踏まえ，内部点検を行うために，全職員による個人情報取扱いのセルフチェック実施に向けて，個人情報保護委員会で議論を重ねた。	

中期目標	6 戦略的な広報と分かりやすい情報の提供 ⑴ 医療サービスや法人の運営状況について市民の理解を深められるよう，目的や対象に応じた適切な内容や媒体による戦略的な広報を行うこと。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	A	A	

中期計画	
	⑴ 広報誌やホームページ等の各種広報媒体を充実させることで，市民に対する，病院の特色や取組内容等の分かりやすい情報発信に努める。 また，地域の関係医療機関への訪問活動の充実により，地域に対して積極的に情報発信する。

【実績】

市立病院においては，市民・患者向け広報誌「やすらぎ」を年４回発行し，院内，市役所，区役所及び周辺施設への配架，関係医療機関への送付，ホームページへの掲載を行うとともに，市民しんぶんへの掲載や広報発表，地下鉄広告などにより，時期やターゲットに合わせた広報活動を実施した。

平成２７年度に京都市立病院創立５０周年として，イメージキャラクターを制作し，公募により名前（みぶまる・みぶりん）を決定したほか，平成２９年度には，「がん患者とご家族のための食事のヒント」の冊子を新たに作成した。

京北病院においては，診療体制や医療，健康に関わる取組等を周知する広報誌「スマイル通信」を発行し，関係機関に配布した。

ホームページについては，平成２７年度に全面リニューアルを行うとともに，２８年度にスマートフォン対応，２９年度にはウェブアクセシビリティ（心身の機能に制約のある人が年齢的・身体的条件に関わらずウェブ情報にアクセスし，利用できること）への対応を完了させるなど，市民にわかりやすいホームページ作りに努めた。

地域医療機関向けには，「診療概要」を年１回，広報誌「連携だより」を年４回発行し，診療科ごとの特色・強みをまとめた「アピールポイント集」や「かかりつけ医名簿」を新たに作成し，地域連携の一層の強化に努めた。また，各診療科の医師を中心に地域医療機関へ訪問活動を行い，病院や診療科の取組状況等を分かりやすく発信し，紹介患者獲得に向けて取り組んだ。

関連指標

＜参考実績＞

○開業医訪問活動の実施状況

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
開業医訪問活動	－	66 件	73 件	154 件	

中期目標	6 戦略的な広報と分かりやすい情報の提供 ⑵ 医療の質や経営に関する指標について，正確で分かりやすい情報を提供すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	B	B	

中期計画	⑵　医療の質や経営に関する指標を用い，実績や目標達成度等について分析するとともに，その結果について市民に対して正確で分かりやすい情報発信を行う。

【実績】

医療の質に関することについては，市立病院が独自に設けている臨床指標（クリニカル・インディケーター）について，従来の１０分野４１項目からバランスコアカードの視点を取り入れ，１３分野４７項目に整理し，その実績を診療概要及びホームページにおいて公表した。また，医療の質推進委員会では，毎年その指標から重点項目を選出し，課題の把握，改善のための取組状況の進捗確認を行い，その実績を診療概要及びホームページにおいて公表した。

経営に関することについては，毎年度の決算，事業報告等の病院経営に直結する情報や，毎月の理事会における稼働状況等の議論をホームページ上で公開し，市民に対する情報発信に努めた。

関連指標

＜参考実績＞

○医療の質推進委員会重点取組項目

	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８
内容	−	・地域医療機関サポート率 ・病院推奨度 ・転倒転落発生率・損傷発生率	・外来待ち時間（予約なし・予約あり・紹介） ・転倒転落発生率・損傷発生率 ・救命救急室からの入院患者数と割合 ・年間新入院患者に占めるがん患者の割合 ・クリニカルパス使用率 ・退院サマリー２週間以内完成率

	Ｈ２９	Ｈ３０
内容	・外来待ち時間（予約なし・予約あり・紹介） ・紹介率	・患者誤認 ・平均在院日数 ・職員満足度・患者満足度

第６　財務内容の改善に関する事項					
中期目標	１　経営機能の強化 　診療報酬の改定や患者の動向を見極め，迅速に情報の収集及び分析をしたうえで，対応策を立案し，的確な対応を行うこと。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	A	A	
中期計画	病院経営や医療事務に精通した人材を確保・育成するとともに，外部の専門的知見やノウハウ等を積極的に活用することにより，法人の経営機能を強化し，医療制度改革や患者動向及び京都府が策定する地域医療ビジョンを見極めた的確な対応を行う。				

【実績】	関連指標
民間病院での経験を生かし，即戦力として活躍できる人材の確保に努めるとともに，平成２８年度には，診療情報管理士等の病院事務職員の業務に必要な資格取得に関し，その費用を支援する制度を新設したほか，外部の研修や学会発表等にも積極的に取り組むなど，人材育成に努めた。 　また，経営企画会議等においてＳＰＣの経営支援機能を積極的に活用し，随時経営指標の分析，企画・改善提案を求めるとともに，専門家の指導を受けて業務改善を進め，経営機能の強化を図った。 　医療制度改革や地域包括ケア構想への対応については，京都市域地域医療構想調整会議や国や府の動向について，随時法人内で共有するとともに，医療環境の動向を注視し，経営機能の強化について検討した。	

中期目標	２ 収益的収支の向上 ⑴ 病床利用率の向上や適正な診療収入の確保，未収金の発生防止に努め，収益確保を図ること。また，人件費比率の目標管理，診療材料等の調達コストの縮減，後発医薬品の使用促進など費用の効率化を図ること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		B	A	A	

中期計画

⑴ 関係部署による連携の下，病床利用率等の評価指標の情報共有を促進し，的確な分析を行うとともに，患者入退院情報を一元的に集約し病床管理機能を強化することで効率的・効果的な病床運営を図る。また，マニュアルに基づいた未収金対策を徹底する等の取組により，安定した医業収益の確保を図る。

人件費比率の目標管理や民間のノウハウ活用による診療材料費の節減，後発医薬品の更なる使用促進等を図ることにより，費用の効率化に努める。

また，部門別収支の管理・分析に努め，的確な経営分析に努めるなど，健全な収支構造の確保を図る。

市立病院については単年度黒字を維持し，京北病院については単年度黒字化を目指す。

【関連する数値目標】

（市立病院）

項　　目	平成２５年度実績	第１期計画目標	第２期計画目標
一般病床利用率	８７．７％	９１．１％	９３．０％
平均在院日数	１２．７日	－	１０．５日
入院診療報酬単価	５６，２４１円	５１，３１０円	６８，０９２円
外来診療報酬単価	１２，２１９円	１０，４０８円	１５，５００円
経常収支比率	９７．７％	－	１０３．６％
医業収支比率	８９．６％	－	９５．０％
人件費比率（対医業収益）	５５．９％	－	５０．４％
材料費比率（対医業収益）	２４．４％	－	２４．８％

（注）一般病床利用率は，結核病床及び感染症病床を含まない数値である。

（京北病院）

項　　目	平成２５年度実績	第１期計画目標	第２期計画目標
一般病床利用率	７２．２％	７１．１％	７１．１％
入院診療報酬単価	２８，２６０円	２７，３５０円	２９，３６１円
外来診療報酬単価	５，５９０円	５，５９０円	５，９００円
京北介護老人保健施設稼働率	８８．１％	８９．７％	９１．７％
経常収支比率	９９．４％	－	１０３．０％
医業・介護収支比率	７９．２％	－	７９．５％
人件費比率 （対医業・介護収益）	８０．８％	－	７７．８％
材料費比率 （対医業・介護収益）	８．４％	－	８．７％

【実績】

市立病院においては，毎週の診療管理委員会や経営企画会議において，診療科，病棟ごとの病床利用率や平均在院日数，収益状況について情報共有し，クリニカルパスの見直しによる在院日数の適正化や入院時からの退院支援によるスムーズな転退院調整を図るなど，効率的・効果的な病床運営に努めた。また，未収金対策については，必要に応じて，区役所での国保加入や高額療養費に係る患者への手続支援等を実施するとともに，未収金リストを活用し，直接訪問等による回収を積極的に行った。

京北病院においても，毎週の企画会議において病床利用率等の情報共有・分析に取組むとともに，平成２８年度には地域包括ケア病床を導入し，病床運営の効率化を図った。

ＳＰＣによるベンチマーク分析等を活用した診療材料費の削減や後発医薬品の使用促進を図り，費用の効率化に努めるとともに，部門別収支を用いた経営管理にも取り組んだ。

これらの取組により，市立病院については，過去最高収益を年々更新した。平成２７年度はマイナス金利政策の影響による退職給付引当金の増加等により赤字となったが，平成２８年度及び平成２９年度は単年度黒字を維持した。京北病院については，地域包括ケア病床の導入等の収益増加策を講じたが，単年度黒字には至っていないため，引き続き市立病院との連携の下，地域のニーズに沿った医療を提供し，単年度での黒字達成を目指す。

関連指標

＜数値目標実績＞

〈市立病院〉

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
一般病床利用率	88.0％ (91.1％)	84.3％ (92.0％)	85.8％ (92.0％)	87.5％ (92.0％)	
平均在院日数	12.2 日 （ － ）	11.5 日 (11.3 日)	11.2 日 (11.0 日)	11.2 日 (11.0 日)	
入院診療報酬単価	57,207 円 (58,170 円)	60,170 円 (60,652 円)	62,567 円 (63,218 円)	64,089 円 (65,179 円)	
外来診療報酬単価	13,038 円 (12,437 円)	13,726 円 (13,500 円)	15,501 円 (13,700 円)	16,360 円 (14,000 円)	
経常収支比率	100.8％ （ － ）	96.5％ (100.1％)	101.9％ (100.1％)	101.5％ (101.9％)	
医業収支比率	92.1％ （ － ）	88.2％ (89.0％)	96.3％ (89.7％)	95.5％ (92.4％)	
人件費比率(対医業収益)	55.2％ (54.3％)	59.1％ (53.9％)	51.2％ (53.5％)	50.8％ (52.6％)	
材料費比率(対医業収益)	23.5％ （ － ）	26.3％ (24.4％)	28.0％ (24.7％)	29.7％ (24.7％)	

※（）内は年度目標

（注）一般病床利用率は，結核病床及び感染症病床を含まない数値

〈京北病院〉

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
一般病床利用率	71.6％ (71.1％)	71.2％ (71.1％)	70.1％ (71.1％)	65.7％ (71.1％)	
入院診療報酬単価	27,743 円 (29,309 円)	27,294 円 (29,361 円)	28,049 円 (29,373 円)	29,570 円 (29,800 円)	
外来診療報酬単価	5,841 円 (5,767 円)	6,398 円 (5,900 円)	7,247 円 (5,900 円)	7,481 円 (7,100 円)	
京北介護老人保健施設稼働率	87.4％ (89.7％)	91.2％ (91.7％)	89.4％ (91.7％)	88.9％ (91.7％)	
経常収支比率	98.0％ （ － ）	92.2％ (101.0％)	100.0％ (100.7％)	96.7％ (104.4％)	

医業・介護収支比率	78.5% （ ― ）	73.8% (78.5%)	79.6% (78.2%)	75.9% (82.1%)	
人件費比率 （対医業・介護収益）	82.1% (71.8%)	91.3% (76.5%)	84.8% (79.8%)	90.0% (77.7%)	
材料費比率 （対医業・介護収益）	9.5% （ ― ）	8.7% (8.8%)	8.7% (8.8%)	8.3% (8.7%)	

※（）内は年度目標

＜参考実績＞

〈市立病院〉

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
医業収益	14,184 百万円	14,540 百万円	15,866 百万円	16,659 百万円	
純損益	△244 百万円	△714 百万円	336 百万円	301 百万円	

※（）内は年度目標

〈京北病院〉

事　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
医業収益	484 百万円	496 百万円	511 百万円	505 百万円	
介護収益	205 百万円	208 百万円	209 百万円	207 百万円	
純損益	△18 百万円	△77 百万円	△1 百万円	△31 百万円	

中期目標	2 収益的収支の向上 ⑵ 自治体病院として担うべき政策医療の分野において，十分な努力を行ってもなお診療収入をもって充てることができない経費は，一般会計からの運営費交付金として市民の負担により賄われていることを十分認識したうえで，適切な運営費交付金を中期計画に計上するとともに，病院事業全体として効率的経営，収益的収支の向上に努め，自立した運営を図ること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	
	⑵ 政策医療を着実に実施する一方，それらに係る経費の節減にも努め，運営費交付金については，地方独立行政法人法の趣旨に基づき適切な金額を受け入れる。 市立病院においては，高度医療の収益性向上により運営費交付金の縮減に努めるとともに，京北病院においては，へき地医療の安定的な提供に留意する。 建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当する運営費交付金については，経常費助成のための運営費交付金とする。

【実績】

政策医療を着実に実施する一方，それらに係る経費の削減に努め，不採算となる金額を，地方公営企業繰出金に関する基準に準じて運営費交付金として受け入れた。

市立病院においては，高度医療の収益性の向上を図り，運営費交付金の政策医療分について，９億８０百万円（平成２６年度）から６億８８百万円（平成２９年度）に縮減した。

関連指標

○運営費交付金の推移

事 項		Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
市立病院	政策医療	980 百万円	876 百万円	780 百万円	688 百万円	
	その他	1,025 百万円	1,161 百万円	1,176 百万円	1,356 百万円	
	合計	2,005 百万円	2,037 百万円	1,956 百万円	2,044 百万円	
京北病院	政策医療	140 百万円	144 百万円	150 百万円	157 百万円	
	その他	38 百万円	39 百万円	41 百万円	44 百万円	
	合計	178 百万円	183 百万円	191 百万円	201 百万円	
法人	政策医療	1,120 百万円	1,020 百万円	930 百万円	845 百万円	
	その他	1,063 百万円	1,200 百万円	1,217 百万円	1,400 百万円	
	合計	2,183 百万円	2,220 百万円	2,147 百万円	2,245 百万円	

中期目標	３ 安定した資金収支，資産の有効活用 計画的な資金管理，資産の有効活用に努めること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ｂ	Ｂ	Ｂ	

中期計画	
	医療機器などの設備投資及び更新については，目的，稼働目標，費用対効果及び使用年数等を考慮に入れた計画に基づいて実施する。また，活用状況を定期的に検証することにより，資産の遊休化を回避し，効率的かつ効果的な病院運営に努める。

【実績】

年間の医療機器整備計画を策定し，医療機器管理委員会において，優先度（緊急度・必要度）や費用対効果について検討し，機器更新等を行った。

また，院内の共同利用可能な医療機器についてはＭＥセンターで一元的に保守・管理を行い，リニアック，ダヴィンチ等の高額医療機器については，経営企画会議等で稼働状況を確認し，効率的かつ効果的な資産の有効活用に努めた。

関連指標

＜参考実績＞

○高額医療機器の利用状況

事　　項	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
ダヴィンチ手術件数	95 件	87 件	76 件	123 件	
ＰＥＴ－ＣＴ実績	1,410 人	1,640 件	1,822 件	2,595 件	
リニアック稼働件数	9,811 件	10,493 件	10,654 件	10,496 件	

第７ その他業務運営に関する重要事項

中期目標	１ 市立病院整備運営事業におけるＰＦＩ手法の活用 ⑴ 事業を受託した株式会社ＳＰＣ京都の総合的なマネジメントを活用して効率的な病院運営を推進し，患者サービスの向上を図ること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ｂ	Ｂ	Ｂ	

中期計画	ＰＦＩ事業の推進に当たっては，事業を受託した株式会社ＳＰＣ京都（以下「ＳＰＣ」という。）とのパートナーシップを一層深め，綿密な情報共有等により法人とＳＰＣによる一体的な業務運営を図ることで，ＳＰＣのノウハウの更なる活用を図り，効率的な病院運営及び患者サービスの向上に努める。

【実績】

ＰＦＩ事業の各業務に係る市立病院側意見・評価と，ＳＰＣの自己評価に基づき，モニタリング委員会で各業務に係る評価を確定させるとともに，現状における課題を把握した。把握した課題については，ＰＦＩ業務改善会議において，病院職員とＳＰＣとが綿密な意見交換を行いながら，原因分析と改善策の検討を行ったほか，ＳＰＣからは民間のノウハウを活かした経営改善に係る新規提案を受けた。当該提案については，病院側で精査を行い積極的に取り入れることで，両者の信頼関係をより一層深め，パートナーシップの強化につなげるとともに，病院とＳＰＣによる一体的な業務運営を推進した。

その他，日常的にＳＰＣの担当マネージャーと意見交換，ヒアリングに加え，病院が主体的・積極的に課題を把握し，ＳＰＣと適宜連携を図りながら業務改善を促すことができた。その結果，ＰＦＩ事業を活用することで効率的な病院運営・患者サービスの向上につなげることができ，満足度も向上した。

関連指標

＜参考実績＞

○患者満足度調査結果

		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
入院	Ｈ２７	70%	24%	5%	1%	0%
	Ｈ２８	71%	23%	5%	1%	0%
	Ｈ２９	64%	26%	8%	2%	0%
	Ｈ３０					
外来	Ｈ２７	43%	34%	19%	3%	1%
	Ｈ２８	47%	34%	17%	2%	0%
	Ｈ２９	49%	36%	13%	2%	0%
	Ｈ３０					

<table>
<tr><td rowspan="3">中期目標</td><td rowspan="3">１ 市立病院整備運営事業におけるＰＦＩ手法の活用
⑵ 長期包括的に委託した事業形態を重視し，実施事業の点検と評価を的確に行うこと。</td><td colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</td></tr>
<tr><td>Ｈ２７</td><td>Ｈ２８</td><td>Ｈ２９</td><td>Ｈ３０</td></tr>
<tr><td>Ｂ</td><td>Ｂ</td><td>Ｂ</td><td></td></tr>
<tr><td>中期計画</td><td colspan="5">⑵ ＳＰＣによる自己点検と法人によるモニタリングの両輪により，また，法人とＳＰＣの十分な情報共有を図ることで，短期的及び長期的観点から，実施事業の的確な点検と評価，必要な改善行動に取り組む。</td></tr>
</table>

【実績】

モニタリング委員会を毎月実施し，ＳＰＣの自己点検と自己評価に加えて，病院による現場立入り等に基づくモニタリングを行った。また，要求水準未達成となったものについては，サービス対価の減額措置等を適切に行ったほか，ＰＦＩ事業の課題の見直しを定期的に行い，ＰＦＩ業務改善会議による課題解決に向けての協議をはじめ，それ以外にも法人とＳＰＣで情報共有を図る場を設け，改善活動を実施した。

関連指標

中期目標	２ 関係機関との連携 ⑴ 保健福祉行政の実施に協力すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	
	⑴ 健康教室や栄養指導等を引き続き実施し，市民の健康づくり活動を推進するとともに，京都市をはじめとした関係機関と連携を図り，認知症や虐待，自殺予防等の社会・医療問題に適切に対応する。 また，医療・保健・福祉制度等の多様な相談に的確に対応し，市民の健康を守り支える役割を担う京都市との連携を図る。

【実績】

市立病院では，健康教室や禁煙教室等の市民公開講座を実施したほか，出前講座も実施した。また，栄養指導においては入院・外来栄養指導に加え母親教室や糖尿尿教室でも指導を行い，市民の健康づくりの活動に貢献した。

京北病院においても，京北出張所と連携し，市民対象の出前講座を実施したほか，右京区役所が開催した市民対象の講演等を行った。

京都市とも連携を密に行い，京都市長寿すこやかセンターと連携し，京北病院を含めた全職員を対象とした認知症サポーター養成講座を実施し，全ての職員が認知症対応力向上を目指した。さらに，京北病院では，病院勤務医療従事者認知症対応力向上研修を実施し，認知症対応力向上に努めた。

虐待に対して，医療安全推進室ＳＣＡＮチームを中心に活動を行い，通告事例については，通告後，関係機関と密接な連携を取り対応を行った。育児に関しては，京都市スマイルママホッと事業にも参画し，利用者には産後ケア食を提供するなど，安心して子育てをできるようサポートを行った。また，小児病棟においては，関係機関と連携し，院内学級を配置したほか，病棟保育士の配置，小児科ボランティア活動員に来ていただくことにより，患児が退院後の生活にスムーズに戻れるよう支援した。また，小児がん患者を対象に，その家族同士の交流の場を設けるなどした。

関連指標

＜参考実績＞

○ 市立病院の市民公開講座

講座名	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
かがやき	421 人	398 人	435 人	547 人	
母親教室	308 人	252 人	286 人	286 人	
糖尿病教室	351 人	345 人	291 人	223 人	
禁煙教室	169 人	114 人	46 人	53 人	

中期目標	2 関係機関との連携 ⑵ 健康危機事案，地域保健の推進，救急搬送を担う京都市等の公的機関との連携を図ること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	⑵ 市民の健康を脅かす事案発生時には，京都市等の関係機関と連携を図り迅速かつ的確に対応することで，市内において中核的な役割を担う。 地域保健の推進に当たっては，国の政策や京都府保健医療計画，地域医療ビジョンを踏まえ京都市と連携し，迅速かつ柔軟な病院運営を行う。 また，京都市消防局が救急救助活動時に用いる大型救急車等を配備する用地を市立病院敷地内に確保することで，事故・救急対応に係る連携の強化を図る。 その他，法人のみでは対応が困難な健康危機事案や高度な医療の提供については，大学病院その他の医療機関，京都市及び京都府との連携を図る。

【実績】	関連指標
感染医療においては，京都市と連携して新型インフルエンザ発生時の対応に関して，京都市と感染制御チーム（ＩＣＴ）が合同でワークショップを行い，意見交換を行ったほか，大学病院とも連携し，感染床発生時には，初期対応・搬送等に係る体制を整うなど連携を行った。災害医療においては，災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）を中心に，積極的に研修に参加し，ＤＭＡＴ活動の充実に努めたほか，京都市消防局が集団救急・救助に用いる大型救急車を配置する用地を確保し，消防職員及び医療系の学生も含めた京都市立病院災害想定訓練（京都みぶメディカルラリー）等に活用した。 救急医療においては，救急・災害医療支援センターを災害医療・救急医療の人材を育成する研修施設として，積極的に活用した。また，市立病院消防出張所との直通電話を設置し，出張所との連携に努めたほか，京都市消防局と「救急医療懇話会」を開催し，救急医療に係る意見，情報交換を行うなど京都市と連携した取組を行った。さらに，集団事故，大規模災害時には，当院の医師が高度救急救護車に同乗し，現場で救護活動を行うこととする協定を京都市と締結，地域医療機関，大学と連携して訓練を実施した。 地域医療構想に関して，京都市域医療構想調整会議への出席や，関連会議を傍聴するなど最新の情報収集に努め，情報を共有した。また，法人のみでは対応困難な案件については，京都市をはじめ，他の医療機関と連携して適切に対応し，大規模災害訓練の際には，府内の関係機関と連携のうえ，実践に即した訓練を実施した。	

中期目標	２ 関係機関との連携 ⑶ 医療専門職の養成機関による教育に積極的に協力すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ａ	Ａ	Ａ	

中期計画	
	⑶ 実習生の受入れなどを通じて，医療専門職の養成機関による教育に積極的に協力することで，京都市における優秀な医療従事者の育成を図る。 とりわけ，看護師については，市立病院に隣接する京都看護大学とも臨床と教育の現場において連携協力し，質の高い看護師の養成に寄与する。

【実績】

京都市内外から，臨床実習医師をはじめとして，看護師及び助産師，薬剤師等多様な職種の臨床実習生を受け入れた。看護実習については，実習指導者の充実や看護師養成機関との連携を図り，質の高い看護師の養成に寄与した。また，京都看護大学と京都市の連携協力協議にも参加し，看護大学との連携を進めた。加えて，地元の中高生を対象にふれあい看護体験を実施し，将来の医療従事者の確保に向けての実施を行った。

関連指標

○各職種の実習受け入れ人数（実人数）

講座名	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
医師	108 人	130 人	143 人	153 人	
看護師	432 人	437 人	544 人	664 人	
臨床検査技師	8 人	8 人	8 人	8 人	
管理栄養士	4 人	4 人	4 人	4 人	
薬剤師	41 人	41 人	43 人	43 人	
放射線技師	42 人	52 人	47 人	46 人	

中期目標	３ 地球環境に配慮した持続可能な発展への貢献 地球温暖化防止のために必要な措置を講じるとともに，他の者が実施する地球温暖化対策に協力すること。	事業年度評価結果（小項目）			
		Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
		Ｂ	Ｂ	Ｂ	

中期計画	
	事業系廃棄物の分別適正化と排出量減量及び省資源・省エネルギーの更なる推進を図ることで，持続可能な発展への貢献を果たす。 温室効果ガスについては，環境マネジメントシステムを適切に運用することで，京都市地球温暖化対策条例を遵守し，排出量の抑制を図る。

【実績】

感染性廃棄物の分別の徹底を進め，また部署ごとの排出量の調査を実施し，状況把握に努め，ごみ分別のルール化を行い，周知を頻繁に行ったほか，院内各所の見回りを実施し，指導を行った。

温室効果ガス排出量の削減に向けては，平成２８年度にＫＥＳ・環境マネジメントスタンダード（ステップ１）の認証を取得し，ＫＥＳの評価手法に従って，月ごとに実績値と目標値の比較をし，原因分析と対策を講じた。また，患者負担や業務への悪影響がない範囲で照明や空調エネルギーの見直しを細かく実施し，毎日，結果を数値化することで省エネルギー化の促進を行った。

関連指標

○事業系廃棄物排出量及びエネルギー使用量

	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
事業系廃棄物排出量	286 t	290 t	278 t	
エネルギー使用量	147, 603ＧＪ	150, 122ＧＪ	153, 635ＧＪ	

参考　その他中期計画に定める事項

1　予算（人件費の見積りを含む。），収支計画及び資金計画

⑴　予算

（単位：百万円）

区　分				中期計画（平成27-29年度）	実績値（平成27-29年度）	実績－計画
収入	営業収益			55,660	55,996	336
		医業収益		48,231	48,712	481
		介護収益		670	624	△ 46
		運営費交付金		6,450	6,384	△ 66
		その他営業収益		309	276	△ 33
	営業外収益			805	693	△ 112
		運営費交付金		281	228	△ 53
		その他営業外収益		524	465	△ 59
	資本収入			2,453	2,237	△ 216
		長期借入金		2,453	2,237	△ 216
	計			58,918	58,926	8
支出	営業費用			50,656	51,337	681
		医業費用		49,101	49,424	323
			給与費	25,452	24,968	△ 484
			材料費	11,659	13,425	1,766
			経費	11,705	10,809	△ 896
			研究研修費	285	222	△ 63
		介護保険事業費用		637	670	33
			給与費	438	492	54
			材料費	18	17	△ 1
			経費	181	161	△ 20
		一般管理費		918	1,243	325
			給与費	566	975	409
			経費	352	268	△ 84
	営業外費用			528	559	31
	資本支出			9,076	8,805	△ 271
		建設改良費		2,589	2,365	△ 224
		償還金		6,487	6,440	△ 47
	計			60,260	60,701	441

⑵ 収支計画

（単位：百万円）

区分			中期計画（平成27-29年度）	実績値（平成27-29年度）	実績ー計画
収益の部	営業収益		55, 808	56, 064	256
		医業収益	48, 181	48, 578	397
		介護収益	668	624	△ 44
		運営費交付金収益	6, 450	6, 384	△ 66
		補助金等収益	309	253	△ 56
		資産見返運営費交付金戻入	2	2	0
		資産見返補助金等戻入	198	198	0
		資産見返物品受贈額戻入	0	0	0
		資産見返寄付金戻入	0	2	2
		その他営業収益	0	23	23
	営業外収益		768	661	△ 107
		運営費交付金収益	281	228	△ 53
		その他営業外収益	487	433	△ 54
	計		56, 576	56, 725	149
費用の部	営業費用		53, 737	54, 508	771
		医業費用	52, 161	52, 479	318
		給与費	25, 474	25, 505	31
		材料費	10, 796	12, 409	1, 613
		経費	10, 907	10, 101	△ 806
		減価償却費	4, 720	4, 256	△ 464
		研究研修費	264	208	△ 56
		介護保険事業費用	670	718	48
		給与費	450	512	62
		材料費	15	15	0
		経費	170	150	△ 20
		減価償却費	35	41	6
		一般管理費	906	1, 311	405
		給与費	566	1, 043	477
		経費	325	250	△ 75
		減価償却費	15	18	3
	営業外費用		2, 369	2, 326	△ 43
	計		56, 106	56, 834	728
経常損益			470	△ 109	△ 579
臨時損益			△ 16	△ 77	△ 61
純損益			454	△ 186	△ 640

⑶　資金計画

（単位：百万円）

区分			中期計画（平成27-29年度）	実績値（平成27-29年度）	実績－計画
資金収入	営業活動による収入		56,465	57,439	974
		診療業務による収入	48,901	49,130	229
		運営費交付金による収入	6,731	7,550	819
		その他業務活動による収入	833	759	△ 74
	投資活動による収入		0	2	2
		その他の投資活動による収入	0	2	2
	財務活動による収入		2,453	2,237	△ 216
		長期借入れによる収入	2,453	2,237	△ 216
	前事業年度からの繰越金		1,982	2,803	821
	計		60,900	62,481	1,581
資金支出	営業活動による支出		51,184	51,774	590
		給与費支出	25,890	26,501	611
		材料費支出	11,677	13,236	1,559
		その他の業務活動による支出	13,617	12,037	△ 1,580
	投資活動による支出		2,589	3,433	844
		有形固定資産の取得による支出	2,589	3,419	830
		その他投資活動による支出	0	14	14
	財務活動による支出		6,487	6,440	△ 47
		長期借入金の返済による支出	4,649	4,603	△ 46
		移行前地方債償還債務の償還による支出	1,838	1,837	△ 1
	翌事業年度への繰越金		640	834	194
	計		60,900	62,481	1,581

2　短期借入金の限度額

平成２７年度から平成２９年度までの間において，短期の借入は行わなかった。

3　重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画

平成２７年度から平成２９年度までの間において，重要な財産の譲渡，又は担保供出は行わなかった。

4　剰余金の使途

平成２７年度から平成２９年度までの間において，剰余金は発生しなかった。

5　地方独立行政法人京都市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

⑴　施設及び設備に関する計画

施設及び設備の内容	予定額(平成27-29年度)	中期目標期間(平成27-29年度)実績
病院施設，医療機器等の整備	総額　２，５８９百万円	総額　２，３６４百万円

⑵　人事に関する計画

法人の役割及び医療機能を最大限発揮するにあたり必要な医療専門職を確保するため，脳神経外科医や総合内科医，麻酔科医などの医師の採用とともに，看護師をはじめ医療技術職や事務職についても，現場で即戦力となる人材を積極的に採用し，人員体制強化に努めた。

⑶　中期目標の期間を超える債務負担

ア　移行前地方債償還債務

（単位：百万円）

事　項	中期目標期間償還額（計画値）		次期以降償還額（計画値）	総債務償還額（計画値）	中期目標期間(平成27-29年度)実績	実績－計画値
	平成27-29年度	平成30年度				
移行前地方債償還債務	１，８３８	５９６	１，０７１	３，５０５	１，８３７	△１

イ　長期借入金

（単位：百万円）

事　項	中期目標期間償還額（計画値）		次期以降償還額（計画値）	総債務償還額（計画値）	中期目標期間(平成27-29年度)実績	実績－計画値
	平成27-29年度	平成30年度				
長期借入金償還債務	４，６４９	１，３７５	８，７７６	１４，８００	４，６０３	△４６

ウ　京都市立病院整備運営事業

事業期間：平成２１年度～平成３９年度（１８年間）　　　　（単位：百万円）

	中期目標期間（H27～29年度）事業費	総事業費
中期目標期間当初（A）	１３，５２７	８９，０７９
中期目標期間終了時（B）	１８，６５９	９５，１６９
増減（B－A）	５，１３２	６，０９０

⑷　積立金の処分に関する計画

該当なし。